

科目名	外国経営史		
英語科目	ナンバリング	BBman203 Bsto201	
開講期	春学期	開講学部等	経営学部
教員名	上野 継義	配当年次	2年次
		単位数	2単位

授業概要／Course outline

経済の発展とともに社会は複雑さの度合いを強め、取り組むべき問題も多様になっており、それにつれて問題の解決が専門家に任される傾向が強まっている。実際、私たちの身の回りには専門家と呼ばれる人がたくさんいる。専門家たちは、その専門的知識によって社会に貢献していると一般的には言うてよい。しかし、まことに逆説的ながら、専門家に問題への対処をゆだねることによって、かえって解決から遠ざかるという事例もまたよく知られている。このような専門職化のパラドクスと言うべき事例を学ぶことによって、現代社会のなり立ちや企業に就労する専門家の働きについて理解を深めたい。

経営史学は暗記科目ではありません、想像力と創造力を鍛える学問です。過去を振り返ることによって、現在の位置を確かめ、将来を想像力豊に展望する学問が歴史学です。今日、企業をとりまく環境の変化は激しく、そうした環境変化に企業も個人も柔軟かつ創造的に対応することが求められているわけですが、いったいわたしたちはどこへ向かって進もうとしているのでしょうか。こうした疑問に答えるためには、まずもって、いまのわたしたちがどこからやってきて、いかなる変化の中にいるのかについて、しっかり把握しておく必要があります。自分の頭でものごとを考えようという意欲のある学生の受講を希望いたします。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・その他

- ・moodleとTeamsを使います。Teamsへの登録方法は、moodleに案内を出します。
- ・パソコンを持参してください。歴史資料を紹介しながら授業を進めます。
- ・第10章（ダウ・コーニング社のケース）では、受講者数にもよりますが、可能ならばグループ・ディスカッションを行いたいと考えています。

授業内容・授業計画／Course description・plan

毎回の授業で使う資料(handout)と予習教材(readings)をmoodleに掲載します。各自でダウンロードして、授業に臨んでください。

各章の終了時に「振り返り」を提出していただき、よい質問についてはフィードバックをおこないます。

授業は以下の総目次に沿っておこなう予定です。新しい学問成果を盛り込むべく毎年補訂しており、また、受講生の理解度をみながら講義の構成や内容を組み替えることもあります。上述の講義目的に変更はありません。

[第1回]

イントロダクション

講義のルールをお互いに確認します。また、文章の書き方（シラバスの末尾にあり）について説明いたします。とくにトピック・センテンスの意義を理解し、論理的な文章の読み方と書き方について学びます。

序章 専門職業化のパラドクス

〈検討課題〉 小沢牧子の『「心の専門家」はいらない』についてまとめた書評（テキスト）を読んで、この文章からトピック・センテンスを抜き出さない（テキストに下線を引かない）。抜き出した文章を読んで、なにが得られた知見はありますか？ 得られた知見を文章にまとめて下さい。

第1部 労働と管理——専門家たちの想像力

大量生産を支える労働者の働きに注目し、テイラー主義の克服という難問の解決に挑んだ先人の努力を振り返る。現代社会の物質的な豊かさを支えている大量生産システムは、究極的には人間労働によって支えられなければならないが、この生産システム下の労働はテイラー主義（テイラリズム）と呼ばれる原理に基づいて組織されている。この管理哲学は、物質的な豊かさの源泉であると同時に、労働問題の原因ともなってきた。そうした問題に対する解決の試みを辿ることによって、現在のわたしたちが立っている歴史的位置を理解する。

[第2回]

第1章 ニューイングランド綿業女工の生活と労働

人はなぜ働くのか。労働者の生活理想と日々の労働との関係を観察することによって、勤労意欲のしくみにつ

いて理解を深める。

この章では、工業化初期のアメリカにおいて、製造業の発展および工場制度の波及につれて人びとの生活理想が変質していくプロセスを明らかにする。職人や綿業女工たちがどのような生活を理想と考え、日々の労働生活をどのように見ていたのか（労働観）を明らかにする。

〈検討課題〉 ロウエルの綿業女工たちは自己の労働をどのように見ていたか？ また、なぜロウエル行きをすすんで志願したのか？ 彼女たちの労働観の寄って来る源泉について説明しなさい。

[第3・4回]

第2章 テイラリズム——大量生産を支える管理哲学

フレデリック・ウィンズロー・テイラーの考案になる「テイラー・システム」について、その生成プロセスを振り返って基本的な史実を把握するとともに、この管理技法を支えている管理哲学（テイラリズム）の特徴を理解する。まずは、テイラー・システムに関する同時代人の観察結果や評価を比較検討する。次いで、この管理手法がどのような問題を引き起こし、それに対していかなる解決策が提示されていたのかを概観する。これらの作業を通じて、なぜ今日なおテイラー主義を問う必要があるのか、その理由をわたしたちの生活との関わりの中で考えてみたい。

〈検討課題〉 100年以上前に定式化された管理哲学「テイラリズム」が今日なお議論されているのはなぜか？

[第5回]

第3章 人間機械論と公衆衛生の定義

アメリカ公衆衛生運動の先覚者C. E. A. ウィンズローの前半生をたどるかたちで、産業衛生へのとりくみを跡づける。より具体的には、革新主義期アメリカにおける労務改革運動の文脈の中に、ウィンズローの思想と行動を位置づけ、彼が強い共感をもって受けとめた人間工学思想とこの思想を象徴する人間機械 (human machine) という比喩的表現の含意を浮き彫りにすることによって、彼が労働問題をどのように受けとめたのか、テイラリズムの問題性をどのように克服しようとしたのかを観察する。

〈検討課題〉 過去の人びとと対話することの意義について、本章で学んだことがらに関連づけて、自分の考えをまとめなさい。

[第6回]

第4章 人事管理運動における人間工学の諸相

革新主義期のアメリカにおいて労働者の健康はどのように議論されていたのか。この問いを人間工学思想の生成と展開の経緯に即して跡づける。

〈検討課題〉 雇用管理運動 (employment management movement) の指導者たちが提示した問題解決策（処方箋）は、なにゆえに問題の解決からかえって遠ざかる結果となってしまったのか。直接的な諸原因は、テキストの第5節と第6節に書かれていますが、この問いを深く理解するためには、テキストの全体を読まなければなりません。

[第7回]

第5章 産業看護婦による移民のアメリカ化——安全運動と訪問看護運動との協働——

専門職業主義について理解を深める。産業看護婦たちは、自己の職業理想を実現するために、患者（移民労働者）を利用している、このように理解することはできますか？

〈検討課題〉 このテキストは、2枚1組の写真を読むことによって何が見えてくるのかをまとめたものです。写真の読み方で留意すべき点はなんでしょうか。恣意的な読みにならないためには、何に注意すべきなのでしょう。このテキストで考察した具体例に則して回答を用意してください。

[第8回]

第6章 19世紀末アメリカにおける産業看護の起源——創成神話の成立とその歴史的背景——

看護の専門職業化の動きを、産業看護婦の例に即して、具体的に学びます。アメリカの専門職業主義の特徴を観察することができます。

〈検討課題〉 看護学のテキストに描かれている「産業看護の起源」物語にはどのような特徴があるのか。説明しなさい。

[第9回]

第7章 科学的管理に魂を入れる——米国の安全運動と委員会型管理システム——

1900～10年代のアメリカで発展した委員会型管理システム、およびその発展形態である1920年代の「合同委員会型」従業員代表制には、テイラー主義の欠点を克服するアイデアが織り込まれていたといわれている。これの生成発展のプロセスを再構成するとともに、その評価を試みる。まずはテイラーの同時代人が大量生産体制下の勤労意欲の問題（合理化職場の不能率）をどのように認識し、いかなる解決策を考案したのかを概観し、そうした処方箋（選択肢）の中から、なにが選ばれ、なにが選ばれなかったのかを確認し、その理由を考える。次いで、委員会型

管理システムの応用形態である安全委員会活動について考察する。安全委員会活動は1910年代に全米の産業企業に普及したが、この活動の中に労働者の提案を汲み上げる「参加」の仕組みのあったことを明らかにするとともに、これによって産業民主主義が実現されたのかどうかを検討する。労働者の自発性がいったい何によって基礎づけられていたのかを想像力豊かに思い描く。

〈検討課題〉 労働者の「参加」を推し進める委員会型管理システムの発展によって、アメリカの大企業において産業民主主義が実現されたと考えられますか。

第2部 企業者活動と環境問題

人類の歴史を振り返るならば、私たちは物質的に「豊かな社会」に住んでいるといってよいでしょう。しかしながら、20世紀の進行につれて、豊かであるがゆえの問題もまた意識されるようになりました。そのような諸問題のいくつかを、企業の行動とのかかわりで検討します。

[第10回]

第8章 環境経営史

——経営史・環境史・産業エコロジーへの問いかけ——

環境問題を分析するための基礎概念（作られた環境、産業エコロジー、産業生態系など）を学びます。

〈検討課題〉 地球環境問題は21世紀最大の問題だと言ってよいだろう。この問題に歴史学はどのようなかたちで貢献できるか。テキストを参考にして考えなさい。

[第11回]

第9章 環境経営史によるアスベスト問題再考

——「作られた環境」の中の労働災害——

環境問題を分析するための基礎概念（作られた環境、産業エコロジー、産業生態系など）を、アスベスト問題の事例分析で具体的に応用します。

〈検討課題〉 反アスベスト文献の問題性と、それを克服する方途についてまとめなさい。

[第12・13回]

第10章 審美観の変容と企業者活動

——ダウ・コーニング社とシリコン・インプラント論争——

シリコン・インプラント（胸部移植素材）を開発したダウ・コーニング社(Dow Corning)の事例に即して、豊かな社会の病理現象を検討します。ダウ・コーニング社ほか米国の医療機器メーカー数社によって開発された乳房形成用の医療デバイス「シリコン・インプラント」の安全性が、1980年代以降、おおきな社会問題となった。インプラントの身体への埋め込みで健康を害した人々によって損害賠償訴訟が起され、メーカーは製造物責任を厳しく問われることとなる。この問題の事実関係はよく知られているが、先行研究が主として注目してきたのは、企業の製造物責任の問題や一連の医療訴訟の問題性、および企業のリスク・マネジメントについてであった。本章では、豊かな社会の特徴を理解するための素材としてこのケースを検討してみたい。

〈検討課題〉 (1) 会社の置かれている状況を冷静に把握するために、利害の相関図を描きなさい。(2) ダウ・コーニング社はシリコン・インプラントの製造販売によって重大な経営危機に直面することとなったが、それを引き起こした内的および外的要因について説明しなさい。内的要因と外的要因のそれぞれについて、段落を分けて、説明するように。

[第14回]

第11章 グローバル化時代の企業倫理

——ナイキ社の事例——

21世紀のグローバル企業に求められる行動規範について一緒に考えてみたい。経済のグローバル化とIT革命が進展する中で、企業は環境NGOや人権NGOによる新しい監視圧力にさらされるようになった。その具体例をスポーツ用品最大手ナイキ社の実際経験に即して検討する。

〈検討課題〉 人権NGOは東南アジアで低賃金労働を使っている企業がたくさんあることを知っているのに、なにゆえにナイキ社だけを批判のターゲットにするのか。その理由を記すと同時に、この批判戦略の効果について考えてみよう。

[第15回]

第12章 歴史の散歩道 ニュー・イングランド綿業を訪ねて

ニュー・イングランド綿業の史跡を写真スライドで振り返り、第1章について理解を深める。

レポート試験

試験内容は、早めにmoodleにアップして、執筆に十分な時間をさしあげますので、ていねいに推敲したレポートを提出してください。

ウェブページを通じてテキストを配布します。テキストは、章によって、ハンドアウト形式のものとは論文形式の二種類があります。

ハンドアウトには、(1) 講義概要のほかに、(2) キーワード、(3) 参考文献表、(4) 「講義の理解とコミュニケーションのために」と題する小レポートが添付されています。参考文献は、講義で話した内容をさらに深く理解するための文献案内です。これらの文献を繙き、ひとりで知識を深めていく方法を身につけてください。

論文は前もって目を通してから授業に臨んでください。効率的な読書法について、最初の授業でお話しします。それによって、たとえ長文であっても、比較的短時間で概要をつかむコツを身につけることができます。もとより検討課題に答えるためには精読が不可欠であり、それなりの時間を要することになります（人にもよりますが、4時間から8時間くらい）が、概要を把握するコツを知っていると作業がはかどることでしょう。

章ごとに完成問題（括弧内に適切な語句を入れて文章を完成させる形式の設問）と「振り返り」を用意する予定です。完成問題は事前学習の指針を与えるものです。授業に参加する前に、できる範囲で、この問題に挑戦してみてください。

以下、各章ごとの学習指針を記します。

〔第1回〕

イントロダクション

〔事前学習〕 あらかじめ履修要項とシラバスを読んでおくこと。

〔事後学習〕 文章の書き方とトピック・センテンスについて説明しますので、その知識を前提にして、序章の〈検討課題〉に挑戦してください。分からないことがあるなら、必ず質問票を提出するように。

〔第1回、つづき〕

序章 専門職業化のパラドクス

〔事前学習〕 (1) 小沢牧子の『「心の専門家」はいらない』についてまとめた書評（テキスト）を読んで〈検討課題〉に答えなさい。（所要時間の目安：60分）

(2) 完成問題がmoodleにありますから、それに挑戦してください。（所要時間の目安：30分）

〔事後学習〕 (1) 完成問題の解答をmoodleに挙げますから、復習の素材にしてください。（所要時間の目安：30分）

(2) moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。質問コーナーがありますので、分からないことは必ず質問するように。（所要時間の目安：240分）

〔第2回〕

第1章 ニューイングランド綿業女工の生活と労働

〔事前学習〕 参考資料「工業化初期ロウエルの女工たち——ニューイングランド綿業史研究の新動向——」を前もって精読して、授業に臨むこと。ハンドアウトに掲載した史料ならびにキーワードにあらかじめ目を通しておく。

（所要時間の目安：60分）

〔事後学習〕 moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。綿業女工の意識について説明するには、それを底辺から規定していたであろう文化的な背景や社会経済史的な条件とかかわらせて、分析的に叙述する必要がある。単に史料の文言を引用して、過去の事実を羅列しただけでは、説明したことにはなりません。序章のハンドアウトに掲載した「文章の書き方」を必ず参考にすること。（所要時間の目安：240分）

〔第3・4回〕

第2章 テイラリズム——大量生産を支える管理哲学

〔事前学習〕 ハンドアウトに掲載した史料に目を通し、小レポートの完成問題をできる範囲でおこなう。参考文献「アメリカ近代産業企業における委員会型管理システムと能率概念の転換」に目を通しておくと、格段に理解が深まる。（所要時間の目安：60分）

〔事後学習〕 (1) 完成問題の解答をmoodleに挙げますから、復習の素材にしてください。

(2) moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。検討課題にとり組む。を次週までに完成させる。ハンドアウトに掲載している史料は、市販のテキストや専門書には載っていません。したがって、それらを読んでもこの課題に答えることはできません。序章で説明した「文章の書き方」を必ず参考にすること。（所要時間の目安：240分）

〔第5回〕

第3章 人間機械論と公衆衛生の定義

〔事前学習〕 テキストを精読し、完成問題をできる範囲でおこなう。テキストを前もって読んでいただくために、完成問題の提出期日を授業日の前日に設定しています。（所要時間の目安：60分）

〔事後学習〕 (1) 完成問題の解答をmoodleに挙げますから、復習の素材にしてください。

(2) moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。（所要時間の目安：240分）

〔第6回〕

第4章 人事管理運動における人間工学の諸相

〔事前学習〕 テキストを精読し、完成問題をできる範囲でおこなう。(所要時間の目安：60分)

〔事後学習〕 (1) 完成問題の解答をmoodleに挙げますから、復習の素材にしてください。

(2) moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。(所要時間の目安：240分)

〔第7回〕

第5章 産業看護婦による移民のアメリカ化

〔事前学習〕 テキストを精読し、完成問題をできる範囲でおこなう。テキストを前もって読んでいただくために、完成問題の提出期日を授業日の前日に設定しています。(所要時間の目安：60分)

〔事後学習〕 (1) 完成問題の解答をmoodleに挙げますから、復習の素材にしてください。(所要時間の目安：30分)

(2) moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。(所要時間の目安：240分)

〔第8回〕

第6章 19世紀末アメリカにおける産業看護の起源

〔事前学習〕 テキストを精読し、完成問題をできる範囲でおこなう。テキストを前もって読んでいただくために、完成問題の提出期日を授業日の前日に設定しています。(所要時間の目安：60分)

〔事後学習〕 (1) 完成問題の解答をmoodleに挙げますから、復習の素材にしてください。(所要時間の目安：30分)

(2) moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。(所要時間の目安：240分)

〔第9回〕

第7章 科学的管理に魂を入れる

〔事前学習〕 ハンドアウトに掲載した史料に目を通し、moodleに挙げた完成問題をできる範囲でおこなう。参考文献「アメリカ近代産業企業における委員会型管理システムと能率概念の転換」に目を通しておくと、格段に理解が深まる。(所要時間の目安：60分)

〔事後学習〕 (1) 完成問題の解答をmoodleに挙げますから、復習の素材にしてください。(所要時間の目安：30分)

(2) moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。ハンドアウトに載せている史料は、市販のテキストや専門書には載っていませんから、それらを読んでもこの課題に答えることはできません。序章のハンドアウトに載せた「文章の書き方」を必ず参考にすること。(所要時間の目安：240分)

〔第10回〕

第8章 環境経営史

〔事前学習〕 テキストを精読し、完成問題をできる範囲でおこなう。テキストを前もって読んでいただくために、完成問題の提出期日を授業日の前日に設定しています。(所要時間の目安：60分)

〔事後学習〕 (1) 完成問題の解答をmoodleに挙げますから、復習の素材にしてください。(所要時間の目安：30分)

(2) moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。(所要時間の目安：240分)

〔第11回〕

第9章 環境経営史によるアスベスト問題再考

〔事前学習〕 テキストを精読し、完成問題をできる範囲でおこなう。テキストを前もって読んでいただくために、完成問題の提出期日を授業日の前日に設定しています。(所要時間の目安：60分)

〔事後学習〕 (1) 完成問題の解答をmoodleに挙げますから、復習の素材にしてください。(所要時間の目安：30分)

(2) moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。(所要時間の目安：240分)

〔第12・13回〕

第10章 審美観の変容と企業者活動

〔事前学習〕 (1) ウェブページに掲載したダウ・コーニング社のケースを前もって精読し、問題状況を浮き彫りにするための利害の相関図を描きなさい。相関図を正確に描けるかどうか、ケースの理解を決定的に左右します。(所要時間の目安：180分)

前もって利害の相関図を提出してもらい、それについて検討する場を設けたいと考えています。

(2) 完成問題がmoodleにありますから、それに挑戦してください。(所要時間の目安：30分)

〔事後学習〕 (1) 完成問題の解答をmoodleに挙げますから、復習の素材にしてください。

(2) moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。検討課題に挑戦してください。事例をよく読めば回答できる課題であり、基本的に日本語能力を試す課題だといってもよいでしょう。利害の相関関係をよく検討し、それに基づいて分析的な記述を心がけてください。「文章の書き方」を必ず参考にすること。(所要時間の目安：240分)

)

[第14回]

第11章 グローバル化時代の企業倫理

[事前学習] テキストを読んで〈検討課題〉に答えなさい。ハンドアウトに掲載した史料ならびにキーワードにあらかじめ目を通しておく。テキストを前もって読んでいただくために、完成問題の提出期日を授業日の前日に設定しています。(所要時間の目安: 60分)

[事後学習] moodleに挙げた「振り返り」を行ってください。検討課題に挑戦してください。史料に言及する必要があるときは、史料番号を指示するにとどめ、文章を長々と引用しないこと。結論を先に述べ、そのあとで理由を記すこと。「文章の書き方」を必ず参考にすること。(所要時間の目安: 240分)

[第15回]

第12章 歴史の散歩道 ニュー・イングランド綿業を訪ねて

[事前学習] ハンドアウトに掲載した史料にあらかじめ目を通しておく。(所要時間の目安: 30分)

[試験問題] レポート課題を完成させる。結論を先に述べて、その理由を説明する文章を心掛けてください。最初の講義で説明した「文章の書き方」に準拠すること。(所要時間の目安: 600分)

授業の到達目標/Expected outcome

(1) この授業では各章ごとに文章課題(検討課題)を用意しています。これに取り組むことによって、論理的なものごとを考え、筋の通った文章を書く力を鍛えてください。

(2) 歴史学は暗記科目ではありません。想像力と創造力を鍛える学問です。過去を冷静に振り返り、わたしたちがいま立っている現在の位置を確かめ、将来を想像力ゆたかに構想する、このような歴史的な思考力と想像力を鍛えていただきたいと考えています。

(3) 現代の経営問題を歴史的な視野から振り返ることによって、自ら問題を発見し考える力を身につけることがこの講義では目指されています。

身につく資質・能力/Competencies to be attained

・思考力

専門知識・専門技能

・幅広い教養

【経営学部 マネジメント学科】

・戦略と組織の基本知識

・基礎的なマネジメント力

履修上の注意/Special notes, cautions

(1) 学生諸君とのコミュニケーションを大切にしています。講義内容で分からなかった点は授業中に尋ねてください。小レポートに記された優れた質問は次の授業で紹介し、フィードバックをおこないます。また、自分でさらに深く研究してみたいテーマを発見した学生にはアドヴァイスを差し上げます。オフィス・アワーの時間帯を有効に活用してください。

(2) 映像資料を紹介しますので、必ずノート・パソコンまたはタブレット型のデバイスを持参してください。

(3) 各章ごとに「振り返り」を用意していますので、授業への恒常的な出席が不可欠です。就職活動をしている学生はこの点をよく考えて受講登録を行うように。

(4) 最初の授業で、この講義の特徴をお話いたします。受講するに際して必ず守って頂くルールがあります。それらを理解し納得した上で履修してください。

(5) 授業で使うハンドアウトおよび読書課題は半端な量ではありません。相当量の文章を読み込んでいく作業が不可欠であり、そのための時間と労力を惜しまない人だけが履修可能です。

(6) ソフトドリンクスの持ち込みを、この授業では許可しています。

評価方法/Evaluation

各章に用意されている検討課題および講義最終日に提出していただくレポートによって、講義の理解度を測り、それによって評価いたします(100%)。検討課題ならびにレポートの評価基準は、序章で説明する「文章の書き方」です。これに即して評価いたします。

各章の課題は、原則として、(1)上記の検討課題のほかに、(2)完成問題、(3)振り返り、この三つで構成されています。中には完成問題のない章や事前学習の成果を提出してもらう章もあります。すべてmoodle上でおこないます。

「振り返り」には質問コーナーが用意されています。すぐれた質問は加点要素となります。加点要素というのは100パーセントを超えて加点するという意味です。そのため例年100点満点を事実上超える学生がいます。もとより成績表には100点以上の点数をつけることはできないのですが。

「完成問題」ならびに「振り返り」の提出回数が3分の2に満たない場合は、大学の共通ルールに基づき、「出席日数不足」となります。なお、検討課題にとり組んでいない場合は、提出とは見なしません。

教材/Text and materials

以下のテキストは講義の進展に合わせてmoodleにアップします。

上野継義「人間機械論と公衆衛生の定義——革新主義期アメリカにおけるC. E. A. ウィンズローと人間工学運動——」『アメリカ研究』第56号（2022年3月）。

—「チャールズ・ウィンズローの公衆衛生の定義について——説明抜きの加筆・修正・削除に関する文献調査：1-英語文献（米英と国際組織を中心に）——」『京都マネジメント・レビュー』第40号（2022年3月1日）。

—“Bibliography of Charles-Edward A. Winslow: An Addendum, 1909-1924.” Kyoto Management Review 40 (March 2022).

—「環境経営史——経営史・環境史・産業エコロジーへの問いかけ——」『アメリカ経済史の新潮流』岡田泰男，須藤功編，159-89（第7章）。慶應義塾大学出版会，2003年3月。

—「環境経営史から見たアスベスト問題再考——『作られた環境』の中の労働災害——」『豊かさと環境（シリーズ・アメリカ研究の越境 第3巻）』秋元英一，小塩和人編，243-66（第11章）。ミネルヴァ書房，2006年10月。

—[編訳]「審美観の変容と企業者活動——ダウ・コーニング社の事例——（経営史講義資料）」『京都マネジメント・レビュー』第29号（2016年9月30日）：107-36。

—「産業看護婦による移民のアメリカ化——安全運動と訪問看護運動との協働——」『医療化するアメリカ——身体管理の20世紀』平体由美、小野直子編，91-146（第3章）。彩流社，2017年3月。

—「書評：『「心の専門家」はいらない』小沢牧子著（洋泉社、2002年3月）」『京都マネジメント・レビュー』第33号（2018年10月15日）：103-7。

—「19世紀末アメリカにおける産業看護の起源——創成神話の成立とその歴史的背景——」アメリカ経済史学会編『アメリカ経済史研究』第18号（2019年12月）。

—「児童労働とサッカーボール——ナイキ社による労働改革の事例——（経営史講義資料）」『京都マネジメント・レビュー』第33号（2018年10月15日）：85-101。

質問や相談の方法／Instructor contact

研究室：第4研究室棟303号室

オフィスアワー：最初の授業時間に案内いたします。

オンライン・オフィスアワー：moodleに設けます。

各章の「振り返り」をmoodleに用意します。ここに質問コーナーが用意されています。

その他／Others

まえもって1年次配当の科目「経営史入門」を履修しておくことが望ましい。